

参考文献

[河川環境関係]

- 1) 北海道開発局・北海道：石狩川魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業実施計画、1997. 7
- 2) 北海道新聞社：しれとこライブラリー④ 知床の魚類、斜里町知床博物館、2003. 6
- 3) 北海道：「知床サケ科魚類遡上状況等調査業務（平成 16 年）」
- 4) 帰山雅秀：最新のサケ学、成山書店、2004. 5
- 5) 真山 紘：さけ・ます類の河川遡上生態と魚道、さけ・ます資源管理センターニュース、No.13、2004. 9
- 6) 真山 紘：サケ親魚のそ上行動実験—「魚がのぼれる魚道」—をもとめて、魚と卵、1988
- 7) 真山 紘：魚道型実験水路におけるサクラマス幼魚のそ上行動、さけ・ますふ化研報、(41)、1987
- 8) 知床ラウス通信：カラフトマス、知床ラウス通信 13 号、2000. 9
- 9) 養殖研究所：サケ科魚類の繁殖機構に及ぼす酸性雨の影響、平成 10 年成果選集、
- 10) 広井修他：人工授精におけるサケ卵の受精水の適水温—1. 高水温の影響試験、さけ・ますふ化研報 42、1998
- 11) 「100 平方メートル運動の森・トラスト」に係わる生物相復元事業 サクラマス遡上・産卵状況調査業務 平成 15 年度報告書、Kon Photography、2005. 9
- 12) 小宮山英重：知床サケ科魚類遡上状況等調査業務報告書、野生鮭研究所、2005. 1
- 13) 北海道開発局建設部地方整備課（文責：吉井）：羅臼川現地調査速報（2005. 5. 16）、北海道開発局、2005. 5
- 14) 古屋 稔：サケマスの道（遡上と降海）、ホームページ、2005. 6
- 15) 上田 宏：サケ科魚類の母川回帰機構に関する生理・生態学的研究、日本水産学会誌、71(3)、2005. 3
- 16) 上田 宏：水生動物の行動解析に用いられる最新のバイオテレメトリー手法、アクアネット、2004. 4
- 17) 妹尾優二：魚たちの話 平成 11 年発行
- 18) 養殖研究所日光支所繁殖研究室：サケ科魚類の繁殖機構に及ぼす酸性雨の影響、(社)日本水産資源保護協会 水産用水基準（生活環境項目）
- 19) 知床財団委託事業：サクラマス遡上・産卵状況調査業務 平成 15 年度報告書
- 20) サケの放流数と来遊数及び回帰率推移：http://salmon.affrc.go.jp/zoushoku/ok_relet.htm
- 21) ふ化放流事業のながれ：<http://salmon.affrc.go.jp/zoushoku/koutei.htm>

〔土砂動態及び魚道等関係〕

- 1) 和田義弘：魚道見聞録、山海堂、2003. 1
- 2) 桜井善雄監修：自然復元特集 3 水辺ビオトープ その基礎と事例、信山社サイテック、1994. 7
- 3) 下田和孝ほか：プールタイプ魚道の設置が北海道の通し回遊魚の流程分布に与える効果、魚類学雑誌 50(1)、2003. 5
- 4) 高橋信忠：河川工学入門、森北出版、2004. 3
- 5) 東 三郎：地表変動論、北海道大学図書刊行会、1980. 2
- 6) 青山己織訳：ダム撤去、岩波書店、2004. 2
- 7) 東 三郎監修：土木教程選書 砂防学概論、鹿島出版会、1991. 1
- 8) 河村三郎：土砂水理学 1、森北出版、2005
- 9) 館石亮雄：平成 15 年度大野川水生生物生息環境改善事業基本計画（案）、ELVIENTO、平成 15 年 8 月
- 10) 中村俊六：魚道のはなし、財団法人リバーフロント整備センター
- 11) 砂防学会監修：砂防学講座第 4 巻 溪流の土砂移動、山海堂、1991. 3
- 12) 斜里町：「斜里町地域防災計画」災害記録
- 13) 羅臼町：「羅臼町史」、2001
- 14) 気象庁：気象統計情報・気象等の知識
- 15) 羅臼町：羅臼町統計資料
- 16) 斜里町：斜里町統計資料
- 17) (社) 北海道土木協会：北海道の大雨資料、2000. 12
- 18) 工業技術院地質調査所：1:200,000 地質図 知床岬、1974
- 19) 北海道統計協会：北海道市町勢要覧
- 20) 北海道営林局・財団法人北海道森林技術センター：平成 4 年度治山ダムの溯上に関する調査報告書
- 21) 水源地治山対策に関する技術検討会報告書：水源地治山対策に関する技術検討会、2004. 12

[調査資料]

ポンプタ川 土砂生産源（崩壊地）調査 野帳

崩壊地番号	崩壊地	位置	傾斜	形状-1	形状-2	方位	面積(m ²)	崩壊深(m)	特記事項
1	植被崩壊地	下	緩	表面侵食	板状	NE	2,054		
2	植被崩壊地	下	中	表面侵食	板状	NE	7,187		
3	植被崩壊地	下	緩	表面侵食	板状	N	616		
4	崩壊地	下	中	表面侵食	板状	NE	1,016		
5	植被崩壊地	下	緩	表面侵食	板状	NE	1,267		
6	崩壊地	中	緩	表面侵食	板状	NE	1,165		
7	植被崩壊地	中	緩	表面侵食	板状	NE	2,272		
8	植被崩壊地	下	緩	表面侵食	板状	NE	1,820		
9	植被崩壊地	中～下	緩	表面侵食	板状	E	630		
10	植被崩壊地	中～下	緩	表面侵食	板状	E	726		
11	植被崩壊地	下	緩	表面侵食	板状	E	385		
12	植被崩壊地	下	緩	表面侵食	板状	E	983		
13	植被崩壊地	下	緩	表面侵食	板状	NE	1,800		
14	植被崩壊地	上～下	緩	表面侵食	板状	E	1,928		
15	崩壊地	下	急	岸決壊	貝殻状	N	2,155		
16	植被崩壊地	下	緩	岸決壊	板状	E	896		
17	崩壊地	下	急	岸決壊	板状	E	408		
18	崩壊地	中	急	表面侵食	貝殻状	W	541		
19	植被崩壊地	下	急	表面侵食	板状	E	1,455		
20	植被崩壊地	下	中	表面侵食	貝殻状	NW	740		
22	植被崩壊地	下	中	表面侵食	板状	W	1,225		
31	崩壊地	下	急	表面侵食	板状	NE	1,400	0.5	70*20*0.5 実測
38	崩壊地	中	急	表面侵食	板状	NE	174		
39	植被崩壊地	下	急	表面侵食	板状	E	3,778		
40	植被崩壊地	下	中	表面侵食	板状	E	922		
42	崩壊地	中	急	表面侵食	板状	NE	800	0.5	20*40*0.5 実測
43	崩壊地	下	急	表面侵食	板状	E	1,200	0.5	40*30*0.5 実測
44	植被崩壊地	下	急	表面侵食	板状	N	1,283		
45	崩壊地	中	急	表面侵食	板状	NW	674		
46	崩壊地	下	急	表面侵食	板状	W	958		
47	崩壊地	下	急	表面侵食	板状	W	200	0.5	20*10*0.5 実測

※ 崩壊地番号の記載された図面は省略。面積は実測及び空中写真による。

ポンプタ川 土砂滞留 (溪流) 調査 野帳

No	延長 A (m)	平均幅 B (m)	面積 C=A×B (m ²)	平均深 D (m)	不安定土 砂量 E=C×D (m ³)	石礫構成(m) 最小～最大/平均	摘要
1	100	10	1,000	0.3	300	0 ~ 2.0 / 0.3	
2	69	12	828	0.3	248	0 ~ 4.0 / 0.3	
3	50	20	1,000	0.4	400	0 ~ 5.0 / 0.4	
4	160	10	1,600	1.5	2,400	0 ~ 6.0 / 1.0	
5	50	20	1,000	0.4	400	0 ~ 5.0 / 0.4	
6	357	15	5,355	0.5	2,678	0 ~ 4.0 / 0.3	
7	46	12	552	0.6	331	0 ~ 4.0 / 0.3	
8	47	6	282	0.5	141	0 ~ 3.0 / 0.3	
9	14	8	112	0.5	56	0 ~ 3.0 / 0.3	
10	37	8	296	0.5	148	0 ~ 3.0 / 0.3	
11	260	10	2,600	0.5	1,300	0 ~ 3.0 / 0.3	
12	220	15	3,300	1.0	3,300	0 ~ 5.0 / 1.0	
13	140	15	2,100	2.0	4,200	0 ~ 6.0 / 2.0	
14	900	4	3,600	0.5	1,800	~ /	空中写真判読
15	610	2	1,220	0.5	610	~ /	空中写真判読
16	1,030	1	1,030	0.5	515	~ /	空中写真判読